

平成24年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	実施状況	実施結果	次年度予定
<b>1. 教育に関する事項</b> <b>(1) 優秀な入学者確保</b> ①入学志願者増加に繋がる効果的な広報を実施するための全学的体制を構築する。	<b>●地域の中学校校長会等との連携</b> ○地域の中学校校長会等において高専の説明を依頼するなど、地域の中学校校長会との連携を深める。	教務主事 専攻科長	○呉市教育委員会と教育連携の協定を締結し、連携事業を開始した。 ○運営顧問会議が平成25年7月に延期になったため、来年度に中学校校長に本校の説明を行って提言を求めるとの予定である。	Ⅱ	有
	<b>●入学説明会、体験入学、オープンキャンパス等の実施</b> ○学校見学会、入試説明会、および米子高専・広島商船高専と合同で高専説明会を計画・実施する。	教務主事 専攻科長	○6月24日に福山市で3高専合同で「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催し、多数の参加者があった。 ○6月17日に呉市レング通り、9月23日に東広島市ショッピングモールにおいて「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催した。 ○8月5日に第1回学校見学会を開催し、昨年度より14名増の589名の参加者	Ⅲ	有
	<b>●女子学生の志願者確保</b> ○女子中学生や保護者に、高専における学校生活、女性技術者や女性研究者のロールモデルなどを分かりやすく伝え、高専の魅力について情報発信を行う。	教務主事 専攻科長	○8月5日の第1回学校見学会において女子中学生を対象とする「女子中学生なんでも相談室」を開催した。 ○高専女子百科Jr.(呉高専版)を編集・発行した。	Ⅲ	有
	<b>●効果的なPR活動</b> ○中学校訪問における訪問先と訪問方法の見直しなど、効果的なPRとなるような事業を実施する。また、呉高専を紹介するホームページの充実を図る。	教務主事 専攻科長	○中学校への訪問方法を見直し、相手中学校にも負担にならない方式に改めて広島県の全中学校を対象とし、186校を訪問(資料送付を含む)した。 ○ホームページの充実を図り、内容の更新をその都度行った。	Ⅲ	有
	<b>●中学生及び保護者を対象としたパンフレットの作成・配布</b> ○中学生とその保護者に、中学の早い時期から進路の有利性などの高専をアピールできる内容のパンフレット等を作成し、低学年から配布する。	教務主事 専攻科長	○2種類あった学校案内を1つに統一し、内容を一新した。 ○中学1年生にも学校案内を配布するようにした。 ○広島県以外の中学校へも案内資料を送付した。	Ⅲ	有
	<b>●入学志願者増加対策</b> ○入学者選抜委員会で中学校訪問時に聞き取った中学校側の意見等を分析し、入学志願者増加対策を多方面にわたって組織的に検討する。	教務主事 専攻科長	○呉高専における1年～5年の授業内容に関する情報を学校案内に掲載して中学校に配布するなど、広報内容の見直しを行った。 ○6月17日に呉市レング通り、6月24日に福山市ショッピングモール、9月23日に東広島市ショッピングモールにおいて「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催した。	Ⅲ	有
	<b>②他教育機関等と連携して高専教育及び理工系分野の魅力を社会に発信する。</b>	<b>●理工系分野の魅力の発信</b> ○アガデミア(阿賀学園地域教育連携協議会)や広島テクノショップ・ブランチを利用した事業などを通して、理工系分野の魅力を幅広く紹介する。	教務主事 専攻科長	○9月1日、2日の2日間、広島経済大学立町キャンパスにおいて「キャリア開発キャンプ2012」を開催し、ビジネスプランやボランティアプランを発表した。 ○広島文化学園大学や広島商船高専と共同で地域学「呉・芸南学」を開講した。 ○日本科学技術振興機構のサイエンスパートナーシッププロジェクト企画からの支援を受けて、「呉高専」「阿賀中学校」「市立呉高校」が連携して進める「アガデミア・サイエンス・スクール」を実施した。	Ⅲ
<b>④新たな入学者選抜方法を検討する。</b>	<b>●高専教育にふさわしい人材の確保に向けた入試方法の改善</b> ○推薦入学における合格枠の拡大や試験内容について検討を行う。	教務主事 専攻科長	○推薦入学者の追跡調査を実施した。 ○優秀な学生を確保するため、編入学試験の実施時期の見直しを行い、平成25年度以降は9月から7月に繰り上げることとした。	Ⅲ	無

平成24年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	実施状況	実施結果	次年度予定
	<p>●<b>入学者の学力水準や入学志願者の維持</b></p> <p>○他高専と連携した広報活動や、呉市、福山市、東広島市での高専紹介イベントなどにより入学志願者の維持及び増加を図り、これにより学力水準の維持・向上に努める。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○6月24日に福山市で米子高専・広島商船と3高専合同で「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催した。</p> <p>○6月17日に呉市、9月23日に東広島市において「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催した。</p>	Ⅲ	有
<p>(2)教育課程の編成等</p> <p>①中教審答申の趣旨及び高専機構の中期計画に呼応し、本科と専攻科の新たな教育課程の編成等を検討する。</p>	<p>●<b>地域や学生のニーズに応じた学科編成、学科の大括り化、コース制の導入</b></p> <p>○JABEEプログラムの1本化および専攻科の大括り化を検討する。</p>	教務主事 専攻科長	○JABEEプログラムの1本化および専攻科の大括り化の検討を開始した。	Ⅱ	有
	<p>●<b>地域や産業界のニーズに応じたカリキュラムの改訂</b></p> <p>○機構の示すモデルコアカリキュラムとの整合を検討するとともに、地域や産業界のニーズに応じた教育内容となるように、本科および専攻科におけるカリキュラムの改訂を検討する。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○持続発展教育(ESD)とキャリア教育を全科目で展開するとともに、教育目的をシラバスに明記して意識付けを行って実施した。</p> <p>○本科において全学科共通で実施する初期導入科目「技術者入門」、および「社会科学入門」を実施した。</p> <p>○高専機構の提示したモデルコアカリキュラム(試案)に対する適合性を検討し、分野別専門能力に関しては現行科目の内容見直しで対応可能であるが、基礎的能力に関してはライフサイエンス・アースサイエンスについて科目を新設する必要があることが判明した。これを受けてMCCに対応する内容となるようにカリキュラム検討WGを立ち上げて、分野横断的能力を含めて到達目標の達成度の評価方法の検討を開始した。</p>	Ⅲ	有
	<p>●<b>学習到達度試験の継続実施</b></p> <p>○学習到達度試験を実施するとともに、TOEICを活用して基礎学力の定着度を検証する。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○12月4日に英語統一試験を実施した。</p> <p>○平成25年1月に数学と物理の学習到達度試験を実施した。</p>	Ⅲ	有
	<p>●<b>卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価の実施</b></p> <p>○他高専の評価方法などを参考に、卒業生を含めて授業評価・学校評価アンケートを実施する。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○前期末に学生授業評価アンケートを実施した。また、評価結果をできるだけ早くフィードバックできるように、アンケートの内容および実施方法の見直しを行った。</p> <p>○平成24年10月に実施した保護者公開授業の際に保護者アンケートを行った。</p>	Ⅲ	有
<p>②「ものづくり」、教養教育及びPBLを重視した教育実施方法の改善策を検討し、順次、実施する。</p>	<p>●<b>学生の意欲向上や高等専門学校のイメージの向上に資する全国的な競技会やコンテストへの参加</b></p> <p>○全国的な競技会やコンテストへの参加を積極的に奨励する。</p>	教務主事 専攻科長	○ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンテスト、プレゼンテーションコンテストに参加し、デザインコンテストでは3部門で予選通過し全国大会に出場した。	Ⅲ	有
<p>③持続発展教育の観点で踏まえた新授業科目の導入や既存科目のシラバスの改善を行う。</p>	<p>●<b>ボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動等の実施</b></p> <p>○キャリア開発セミナー等を通じてボランティア活動の意義を説明し、イベントへの参加を積極的に呼び掛ける。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○キャリア開発セミナーを開講し、後期にボランティアプランコンテストやビジネスプランコンテストを実施するとともに、多くの学生が自主的にボランティア活動を企画・実施し、地域から高い評価を得た。</p> <p>○10月10日にアガミアの一環として、津波避難訓練を企画し、阿賀地区全体で実施した。</p>	Ⅳ	有

平成24年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	実施状況	実施結果	次年度予定
④外部資金による教育関連特別プロジェクトの成果を継承し、発展させる。	<p>●地域と協働で科学技術関連プロジェクトの実施</p> <p>○昨年度実施状況を見ながら、各プロジェクトを継続的に発展させる。</p>	副校長 (総務企画)	<p>○JST サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)により、アガデミア・サイエンススクールを次のとおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイコン実習コース(初心者向けコース)を5回(第1回6/2(土)、第2回6/24(日)、第3回7/7(土)、第4回7/22(日)、第5回8/26(日))、阿賀中学校の生徒10名を対象に実施した。</li> <li>・マイコン実習コース(中級者向けコース)を1回(12/22(水))実施した。</li> <li>・ライフサイエンスコースは、第1回(8/26(日))に阿賀中学校生徒及び呉高校の学生を対象に講演会(演題:「広島県の絶滅のおそれのある昆虫たち」, 講師:広島市昆虫館 学芸員 坂本充 氏)を実施し、第2回(11/28(水))及び第3回(12/5(水))は、「日本固有種のメダカと外来種のカダヤシが共存できるか否か」というテーマで行った。</li> </ul>	Ⅲ	無
<p>(3) 優秀な教員の確保</p> <p>①教員人事において、教育力と人間力及び教育・社会貢献を支える研究力を評価するとともに、高専機構の定めた学位取得者比率基準に合致する状況を維持する。</p>	<p>●多様な背景を持つ教員の確保</p> <p>○公募などにより多様な背景を持つ教員を採用する。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○数学、英語、化学、機械工学分野、電気情報工学分野、環境都市工学分野、建築学分野の教員公募を行った結果、計9名の教員の採用が決定した。(多様な背景を持つ教員の内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学:大学教員</li> <li>・英語(2名):大学教員1名、中学・高校教員1名</li> <li>・化学:大学研究員</li> <li>・機械工学分野(2名):民間企業</li> <li>・電気情報工学分野:民間企業</li> <li>・環境都市工学分野:大学院性(兼大学研究員)</li> <li>・建築学分野:大学非常勤講師</li> </ul>	Ⅲ	有
	<p>●専門科目(理系の一般科目を含む)で博士修得者や職業上の高度の資格を持つ者及び一般科目で修士修得者や高度な実務能力や教育能力を有する者の採用</p> <p>○一般科目担当教員については、必ずしも博士の学位を応募の資格条件とはせず、修士以上を資格条件として教育面を重視した採用を行う。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○英語教員の選考に当たっては、教育面を重視した選考を行い、中学・高校教員の教員経験を持つ英語教員を新たに1名採用した。</p>	Ⅲ	有
②女性教員、外国人教員を積極的に採用する。	<p>●女性教員の比率向上、支援策及び働きやすい職場環境の整備</p> <p>○公募による選考の際、同程度の能力であれば女性を優先的に採用するよう努める。また、公募の資格条件にその旨を表記する。</p> <p>○必要に応じて女性教職員のための環境整備を行う。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○採用後5年目に当たる女性教員1名を准教授としての能力があると認め、昇任させることとした。</p>	Ⅲ	有
③高専・技科大間の教員交流制度等を活用し、他機関勤務経験を通じた教員の能力向上策を推進する。	<p>●教員の力量、学校全体の教育力を向上させるため、高等学校、大学、企業等との人事交流の促進</p> <p>○高専・両技科大間教員交流制度により、東京高専へ1名の教員を派遣する。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○平成24年度の高専・両技科大間教員交流制度により、東京高専へ1名の教員を派遣した。</p> <p>○平成25年度の高専・両技科大間教員交流制度により、豊田高専へ1名の教員を派遣を申請した。</p>	Ⅲ	有

平成24年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	実施状況	実施結果	次年度予定
	<p>●国内外の大学等での研究・研修，国際学会への参加</p> <p>○教育教員研究集会，留学生・国際交流担当教員研究集会，国際工学教育研究集会など各種の研究・研修・国際学会へ多くの教員が計画的に参加できるように工夫する。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○機構等主催の教員研修会へ延べ20名が参加した。 (主な研修会等の内訳) ・新任教員研究集会:3名 ・クラス経営・生活指導研修会:2名 ・管理職研修:1名 ・メンタルヘルス研究集会:2名 ・全国高専教育フォーラム:11名 ・工学教育協会高専教育部会教員研究集会:1名 ・高専・技科大連携教員研究集会:1名</p>	Ⅲ	有
④教育活動や生活指導などに関する教員表彰を行う。	<p>●教育活動や生活指導などに関する教員表彰</p> <p>○教員顕彰に係る学生アンケートを実施する。</p>	教務主事 専攻科長	○8月に「教員顕彰のための学生アンケート」を実施した。	Ⅲ	有
	<p>○教員顕彰に係る学生アンケート，教員の自己評価，教員の相互評価などの結果に基づいて3名の教員を校長表彰し，内2名を国立高等専門学校教員顕彰候補者として高専機構に推薦する。</p>	自己点検 小委員会	○教員環境に関する学生アンケート結果および教育研究基盤校費に関する基礎調査結果を基に，上位5位までの教員を校長表彰候補者として推薦した。	Ⅲ	有
(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム ①教務主事・教育主任による明確な責任体制のもとで，教育改善PDCAを着実に実施する。	<p>●資格取得の推進</p> <p>○資格取得を奨励するとともに，必要に応じて資格教育に詳しい非常勤講師等を雇用する。</p>	教務主事 専攻科長	○資格取得による単位認定制度を設け，資格取得を勧めるとともに，資格試験に出題される内容を授業の課題として課すなどして資格取得が容易になるように配慮した。 ○資格取得に繋がる授業(不動産概論Ⅰなど)を開講するとともに，資格取得に詳しい非常勤講師を雇用した。	Ⅲ	有
	<p>●サマースクールや国内留学等の学生の交流活動</p> <p>○包括連携協定締結校である広島大学をはじめとする大学におけるインターンシップを含め，学生の交流活動を積極的に推進する。 ○中国・四国地区高専の専攻科生による研究交流会に参加する。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○インターンシップとして，広島大学へ本科から2名，専攻科から1名の学生が行き，交流を図った。 ○専攻科から，豊橋技術科学大学と早稲田大学へそれぞれ1名が校外実習として参加した。 ○中国・四国地区高専専攻科生研究交流会に専攻科生7名が参加した。</p>	Ⅲ	有
	<p>●理工系大学と教員研修，教育課程の改善，高等専門学校卒業生の継続教育等の連携</p> <p>○高エネルギー加速器研究機構及び広島大学大学院工学研究科と連携して，専攻科で先端工学に関する授業を開講する。</p>	教務主事 専攻科長	○高エネルギー加速器研究機構及び広島大学大学院工学研究科からの出前授業として，専攻科で先端工学を開講するとともに，専攻科生2名が高エネルギー加速器研究機構を訪問した。	Ⅲ	有
②教員の研修経費を確保し，計画的にFDを実施する。	<p>●教員の能力向上を目的とした研修の実施</p> <p>○定期的にFD活動を実施するとともに，教職員間で十分な意見交換を行なう機会を設ける。</p>	教務主事 専攻科長	○年間のFD活動計画を基に，前期に4回，後期に5回，計9回の研修を実施した。	Ⅳ	有
	<p>●一般科目や生活指導などに関する研修</p> <p>○教員全員と担当職員が複数のテーマによる分科会方式で参加する教職員研究会を夏期休業期間中に実施する。</p>	教務主事 専攻科長	○9月13日に教員全員と担当職員が複数のテーマによる分科会方式で参加する教職員研究会を開催した。	Ⅲ	有

平成24年度 自己点検・評価に係る報告書

NO.5

第2期中期計画	年度計画	担当者	実施状況	実施結果	次年度予定
③中・高校教員との相互教育研修を実施する。	●公開授業への相互参加	教務主事 専攻科長	○11月1日に実施する公開授業の案内を近隣学校へ出すとともに、呉市や広島市で実施される公開授業に参加した。	Ⅲ	有
	○近隣の中学校・高校との公開授業による相互教育研修を行う。				
④教育センターにおけるICTを活用した新たな形態の教育を実施する。	●高等専門学校の特徴を活かした教材や教育方法の開発	教務主事 専攻科長	○eラーニング推進室を中心に、eラーニング教材の充実を図り、実施した。 ○全学科の1年生に対する情報リテラシーの授業内容および方法をワーキンググループで検討し、実施した。 ○高専教育への導入科目「技術者入門」を開講した。	Ⅲ	有
	○eラーニング、問題解決型教育(PBL)の拡大・充実を図る。				
	●企業と連携した教育コンテンツの開発	協働研究 センター長	○他高専に教材が利用できるかどうかの検討をお願いしたが、各高専カリキュラムの整合性がまちまちであることから、モデルコアカリキュラムに即した教材作成を検討したほうが良いとの結論に至った。	Ⅲ	無
⑤協働研究センターの支援のもとで、COOPの実施を推進する。	●産学官の連携による効果的なインターンシップの実施	教務主事 専攻科長	○8～9月の夏期休業期間中に、本科166名中110名、専攻科1年生全員27名がインターンシップを履修した。	Ⅲ	有
	○本科生の学外実習や専攻科生のインターンシップを積極的に奨励する。				
	●地域と連携した卒業研究の実施	協働研究 センター長	○7件の応募があり、4件を卒業研究として採択し、課題の実施を完了した。	Ⅲ	有
	○地域に対して卒業研究を公募し、地域とともに学生教育を支援する。				
●知財教育の推進	協働研究 センター長	○学内教職員・学生、地域企業人材を対象として、3月8日IPDL検索演習、3月15日に特許マップ演習を実施した。	Ⅳ	有	
⑥退職技術者等を特命教員や教育協力員として採用し、多様な経験を持つ人材を教育に活用することにより教育内容を拡充する。	●企業の退職技術者など、知識・技術をもった意欲ある企業人材の活用	教務主事 専攻科長	○11名の企業人材と3名の退職技術者を非常勤講師として雇用するとともに、1名の退職技術者を技術アドバイザー(特命教授)として雇用し、より実際に即した技術者教育を行った。	Ⅲ	有
	○企業人材や退職技術者を非常勤講師や特命教授(技術アドバイザー)として雇用することにより効果的な技術者教育を行う。				
⑦副校長(総務企画)のもとで、JABEE認定への取組みを推進する。	●JABEE認定プログラムの更新・拡充	副校長 (総務企画)	○JABEEプログラムの統一に向けた対応として、本校4プログラムの前回受審結果をまとめ、C(懸念)評価となっている基準を明確にした。引き続き統一に向けて準備を行った。	Ⅲ	有
	○JABEEプログラムの統一に向け、準備を始める。				
⑤学生支援・生活支援等 ①課外活動支援策及び学生生活環境改善策を検討・実施する	●図書館の充実や計画的な整備	教 育 センター長	○ハンドブックや基準などの古い図書の更新を行った。 ○学生に図書を選ばせるブックハンティングの前期分を8月2日、後期分を11月30日に実施した。	Ⅲ	有
	○古い図書の更新を行うとともに、図書館を教育センターの基盤部門と位置付けて整備計画を検討する。 ○学生に図書を選ばせることなどに、図書館利用の拡大を図る。				

「実施結果欄」は、Ⅰ:「実施していない」、Ⅱ:「十分に実施していない」、Ⅲ:「十分に実施した」、Ⅳ:「計画を上回って実施した。」

平成24年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	実施状況	実施結果	次年度予定
②低学年次生を重点として、規律ある行動習慣を身に付けさせる取組みを強化する。	●学生指導の取組み強化	学生主事	○「身なり指導の日」を前期2回、後期2回実施した。また、「挨拶運動」を後期に開始し、1月に実施した。 ○文化行事として、邦楽ユニット「WASABI」の公演を12月4日に実施した。	Ⅲ	有
	○「身なり指導の日」「挨拶運動」などを通して、学生に相応しい生活習慣を身に付けさせる。 ○集団活動指導者研修や文化行事を実施する。				
③入学から卒業まで一貫したキャリア支援教育体制を導入する。	●学生の進路選択を支援する事業の実施と体制の整備	教務主事	○学生の進路選択を支援するためのSAPAR企画を立案・実施した。 ○学生の学習・活動を記録するキャリアプロフィールシステムを導入したが、運用するまでには至らなかった。 ○低学年から就職ガイダンスを実施した。 ○就職担当教員が学生の就職希望会社へ訪問して情報収集を行った。	Ⅱ	有
	○学生の進路選択を支援するため、一連の企画(SAPAR)を実施するとともに、学生の学習・活動を記録するキャリアプロフィールシステムの運用の準備を行う。 ○本科4・5年生を対象に就職ガイダンスを実施する。 ○就職担当教員が学生の就職希望会社へ訪問して情報収集を行う。				
④学生相談室機能を強化する。	●メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の充実とともに、危機管理体制を整備する	学生相談室長	○スペシャルサポートルームの管理体制が決まり、再雇用教員を配置して相談体制を整備した。 ○次年度以降は、「相談を受ける相談室」から「予防する相談室」へとコンセプトを変更するとともに、一環の事業として実施していく。	Ⅱ	有
	○特別支援コーディネーターの相談体制を充実させる。また、発達障害学生やメンタル面で支援が必要な学生に対してスペシャルサポートルームを機能させ、支援体制を強化する。				
	○カウンセラー講話、学生及び教職員対象の講演を実施する。特に予防的観点から、学生の状態を調査し、状態にあわせたテーマを設定する。				
(6)教育環境の整備及び活用 ①学生のアイデアを取り入れた、心地よい環境配慮型キャンパスの実現を志向する。	●教育環境に関する学生評価アンケート調査の実施	自己点検小委員会	○平成24年度教育環境に関する学生アンケートを実施した。	Ⅲ	有
	○学生に対して、平成24年度教育環境に関する学生評価アンケート調査を実施する。				
②教育改善計画に沿って、教育設備の拡充・整備を行う。	●施設の有効利用、整備・拡充のマネジメントの実施	施設部会長	○施設マネジメントとして、次の整備を行った。 ・普通教室棟2階の談話室および図書館棟1階のテクノショップオフィスをゼミ室とし運用を開始した。 ・普通教室棟1階の談話室を平成25年度の再雇用教員室として整備した。	Ⅲ	無
	○教育環境に関する学生評価アンケート調査等も踏まえ、施設の改善整備を検討する。				
	●安全で快適な教育環境及び環境に配慮した施設の拡充を実施				
	○施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえて整備、及び省エネ化対策を推進する。		○各棟の屋外階段(機械工学科棟西側、電気情報工学科棟西側、環境都市工学科棟東側、建築学科棟西側、普通教室棟東側・西側、第二普通教室棟西側)を平成25年3月に改修した。	Ⅲ	有

平成24年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	実施状況	実施結果	次年度予定
	●学生を対象とする安全管理講習会 ○昨年度に引き続き、H24年2月1日に外部講師による交通安全講習会を開催し、交通安全に対する学生の意識を高めるように指導する。	学生主事	○2月に3年生合同LHRで交通安全講習を実施、さらにバイク通学学生を対象に交通安全教室を実施した。 ○学生会による自転車登録制度を後期から開始した。	IV	有
	●教職員を対象とする安全管理講習会 ○安全衛生委員会の主催による「安全に関する講習会」及び「AED講習会」を実施する。	安全衛生委員会	○11月14日、共立インシュアランス・ブローカーズ㈱から講師を招へいし、「安全に関する講習会」を実施した。併せて、講習会に先立ち、2日間にわたって当該講師他1名(エンジニア)による校内防災点検を実施した。 ○来年度に「AED」講習会を実施する予定である。	III	有
③図書館棟を「教育センター」として、教育支援機能を充実する。	●教育支援スペースの確保 ○教材作成などの活動スペースを教育センター棟(図書館棟)内に確保し、支援活動を推進する。	教育センター長	○教材作成などの活動スペースを教育センター棟(図書館棟)2階に設け、eラーニングの教材作成などの支援を行った。	III	有
④技術センター協力員等として、退職技術者等の企業人材を活用する。	●企業の退職技術者など、知識・技術をもった意欲ある企業人材の活用 ○予算がつけば、昨年度に引き続き、企業人材を講師として、技術職員の研修を実施していく。	技術センター長	○平成24年6月26日～3日間安全衛生マネジメント研修会を実施。 ○平成25年2月12日～6h×4回「木工機械の取扱い研修」を実施。 ○平成25年3月4日～6h×5回「C言語プログラミング研修」を実施。	III	有
⑤新センター群及び新形態の教育を実施するため、建物の改修及び室機能の再配置を推進する。	●教育センター・技術センターの機能充実 ○教育センター棟の改修も含めた整備計画を検討する。	施設部会長	○図書館1階ホール改修(改修内容:床シート張り替え、照明改修、簡易間仕切りを設置)を行った。 ○教育センター棟玄関に展示用のショールームを設置することを検討した。	III	有
	○技術センターにおける部屋機能の再配置を検討する。		○「第二実習工場」の新設を念頭に、検討中である。	II	有
2. 研究に関する事項 ①副校長(総務企画)のもとで、科学研究費補助金獲得の支援を行うとともに、研究力強化に資する競争的資金公募事業へ計画的に応募する。	●科学研究費補助金等の外部資金獲得に向けたガイダンスの実施 ○科学研究費補助金説明会を実施する。	協働研究センター長	○9月19日第一部、10月3日に第二部を実施した。	IV	有
	●研究活動の点検 ○教育研究基盤校費に関する基礎調査を通じて、教員の研究活動内容を自己点検する。 ○「呉高専研究報告」の発刊を通じて、平成23年度本校教職員による研究業績一覧を作成し、教員個人の研究論文数や学会発表数などを確認する。	自己点検小委員会	○教員の研究活動内容に係わる自己点検については、4月～5月にかけて実施し、その結果を教育研究基盤校費に反映させた。 ○教員の研究活動業績に関するデータを、4月～5月にかけて調査し、その結果を学内研究報告書巻末に掲載した。	III	有
③教員・学生に対する知的財産教育を推進する。	●学内知財教育の推進 ○知財セミナーを実施する。	協働研究センター長	○学内教職員・学生、地域企業人材を対象として、3月8日IPDL検索演習、3月15日にパテントマップ演習を実施した。	IV	有
	●特許出願の推進 ○特許出願マニュアルを作成する。	協働研究センター長	○マニュアルの草案を作成したが、発明届の件数が極めて少ないことから、本マニュアルの意義を次年度に検討することとした。	III	有

平成24年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	実施状況	実施結果	次年度予定
④研究成果を社会に積極的に発信する。	●全国高専テクノフォーラムや各種新技術説明会等での研究成果の発信 ○各種展示会に出展等を行い、本校シーズを発信する。	協働研究センター長	○中国地区テクノフェア、電子情報通信学会展示会において、本校のシーズを発信し、将来に向けた産学官連携の芽が育まれた。	Ⅳ	有
	●研究成果を発表する各種機会への出展、「技術マッチングシステム」、産学官連携コーディネーター等を活用した共同研究・受託研究の促進 ○県内企業のニーズを調査し、本校シーズとのマッチングを検討する。 ○研究分野キーワードに着目したシーズ集を作成する。	協働研究センター長	○数十に亘る県内諸機関を訪問し、企業訪問ではニーズの調査、教育委員会訪問では教育連携、公官庁訪問では県、市レベルでの将来計画などが把握できた。 ○キーワード調査を実施した。	Ⅳ Ⅲ	有 有
	●技術移転の推進 ○学内シーズの技術移転を念頭においた、学内における特許出願マニュアルを作成する。	協働研究センター長	○マニュアルの草案を作成したが、発明届の件数が極めて少ないことから、本マニュアルの意義を次年度に検討することとした。	Ⅲ	有
	3. 地域社会との連携、国際交流等に関する事項 ①教員間及び大学・企業技術者との協働を促す。	●協働研究センター等の施設や設備の充実 ○継続的に外部資金導入に努める。	協働研究センター長	○科研費説明会を9月に、科研申請方法説明会を10月に実施した。 ○科研費への新規の申請が30件(前年度35件)、A-Stepへの申請が3件(前年度3件)であった。	Ⅲ
②公開講座、研究関連講演会及び他団体企画の本校教員担当公開講座等を計画的に推進する。	●公開講座の参加者に対する満足度アンケート調査の実施 ○公開講座満足度アンケートを実施し、結果の精査を行う。	協働研究センター長	○公開講座、市民セミナーにおける受講者の満足度は全体で96%と良好であった。また、主催教職員側からは講義内容のマンネリ化を一新したいとの意気込みがあった。	Ⅳ	有
	●小・中学校に対する理科教育支援の機会増大 ○公開講座、科学教室及び出前授業を企画・実施する。	協働研究センター長	○7件の出前授業、3件の大和ミュージアム連携科学教室、18件の公開講座・市民セミナーを実施完了した。	Ⅳ	有
③「アガデミア」等を活用し、地域理科教育連携事業等を行う。	●小・中学校等との地域連携事業の推進 ○職場体験や文化行事への支援を実施する。	協働研究センター長	○8月20日～24日の5日間、阿賀中生徒を受け入れ職場体験実習を支援した。	Ⅲ	有
④同窓会及び後援会との連携を強化する。	●卒業生の動向把握、ネットワーク構築及び活用 ○学校側のサポート体制構築を検討する。	協働研究センター長	○11月10日にホームカミングデーを実施した。1期生から現役学生まで、教職員も入れて30数名の参加者があり、卒業生ネットワークを強化することができた。	Ⅲ	有
⑤国際的な教育研究交流を活発化する。	●海外の教育機関との国際交流やインターンシップの推進 ○本校独自の海外インターンシップ制度を検討する。	国際交流室長	○低学年から海外で異文化交流が行えるよう、検討を開始した。	Ⅲ	有
	○大連大学と双方向の学生交流を行う。		○予定通り実施し、今後も期待できる成果を得た。	Ⅲ	有
	○インターネットを介してのロボコン競技について、今後の実施に向けて検討する。		○本校の国際交流のあり方について再検討を行い、ロボコン競技を見直すこととし、実施を取り止めとした。	Ⅰ	無

平成24年度 自己点検・評価に係る報告書

NO.9

第2期中期計画	年度計画	担当者	実施状況	実施結果	次年度予定
⑥留学生受入れ拡大に関する方策を検討し、順次、実施する	●外国人留学生に対する研修旅行など、我が国の歴史・文化・社会に触れる機会の提供	国際交流室長	○中国地高専による留学生シンポジウム(津山高専主催)が1月に行われ、本校から8名(留学生3名、日本人学生5名)が参加した。 ○里親会と連携して、12月にバス旅行(岩国・錦帯橋)を行った。	Ⅲ	有
	○里親会と引き続き連携して我が国の歴史・文化・社会に触れる機会を提供するとともに、教職員の積極的な参加を呼び掛ける。		○ロータリー交換留学生は日米間で相互に完了した。 ○次年度、別の留学スキームについて具体的検討を行う。	Ⅲ	有
	○米国からの交換留学生を聴講生として受け入れる。		○10月に10名の本科生による交流が終了した。 ○次年度、プログラムを変更して夏季休業中に実施することで計画している。	Ⅲ	有
	○ハワイ大学マウイコミュニティカレッジへ本科生を送り出し、交流する。		○6月に実施した。留学生の夏休み活動報告会も後期に実施した。	Ⅲ	有
	○里親会との連携行事を継続的に推進する。				
⑦地域課題解決に資する活動を行う。	●地域との連携強化	協働研究センター長	○呉地域OCNを通して、地域研究、町おこし事業などを実施した。	Ⅲ	有
	○呉地域OCN会議及び呉信金と連携し、地域の課題解決に向けた取り組みを行う。		○本校独自の取り組みとして、次年度に向けて組み込みソフト関連公開講座の実施計画を策定し、地域のニーズ調査を実施した。	Ⅲ	有
	●地域技術者育成への貢献				
4. 管理運営に関する事項 ①学校内の資源配分を戦略的かつ計画的に行う。	●戦略的かつ計画的な予算配分の執行	副校長 (総務企画)及び 教務主事	○学内公募を行い、審査の結果、8件を採択した。	Ⅲ	有
	○新たな教育方法の開発又は教育プロジェクトの構築を推進するため、公募による予算配分を実施する。		○6月に学内公募を行い、審査の結果、1件を採択した。	Ⅲ	有
	○新分野における研究開発又は学内若しくは他機関連携による研究開発を推進するため、公募による予算配分を実施する。		○7月に学内公募を行い、審査の結果、9件を採択した。後期は学内公募を行わなかったが、2学年のホームルームにプロジェクトを設置した。	Ⅲ	有
	○全校又は分野等を実施単位とする取組について、公募による予算配分を実施する。				
② 管理運営体制及び自己点検・評価体制の改善を図る。	●服務規律の遵守	副校長 (運営) * 総務課長	○服務規律に関する新任教職員研修を実施した。	Ⅲ	有
	○新任教職員向けに服務規律の遵守を図る。				
	●非常勤事務職員の能力・適性を生かした配置及び業務体制の構築	副校長 (運営) * 総務課長	○教育センター業務に関して、関係室長を軸に情報共有を図った。 ○事務系非常勤職員よりヒアリングを実施し、業務内容の実状調査を実施した。	Ⅲ	有
	○総務課及び学生課所属の非常勤職員に係る業務内容及び業務体制の見直しを行う。				

「実施結果欄」は、Ⅰ:「実施していない。」、Ⅱ:「十分に実施していない。」、Ⅲ:「十分に実施した。」、Ⅳ:「計画を上回って実施した。」

平成24年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	実施状況	実施結果	次年度予定
	<p>●ガバナンスの強化</p> <p>○危機管理体制の点検・整備を行う。</p>	<p>副校長 (運営) *総務課長</p>	<p>○連絡システムの試用にて、特段の不具合がないことを確認した。 ○危機管理マニュアルの改定を行った。</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>有</p>
	<p>●情報管理の整備・改善</p> <p>○機構の管理システムの導入に合わせ、本校の管理体制を整備する。</p>	<p>教 育 センター長</p>	<p>○学内ネットワークシステムの更新を行い、セキュリティ管理の充実を図った。 ○規定に基づきソフトウェア管理検査を実施した。</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>有</p>
	<p>●自己点検・評価体制の改善</p> <p>○教育改善PDCAサイクルの周知を図るとともに、点検・整備を行う。</p>	<p>教務主事</p>	<p>○教育改善PDCAサイクルの周知を図り、教育内容の点検・改善を行った。</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>有</p>
	<p>○自己点検・評価に用いる可能性のあるデータの効率的集約方法を引き続き検討する。</p>	<p>副校長 (総務企画)</p>	<p>○平成25年度認証評価受審に向けて、自己評価書(高等専門学校機関別認証評価申請書、選択的評価事項に係わる評価申請書)を作成するとともに、基礎データを収集し保管した。 ○平成25年度認証評価受審において必要とされる、「教育理念」、「教育目標」に関する学生アンケート及び「教育理念」、「教育目標」及び「アドミッションポリシー」に関する教職員アンケートを実施した。</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>有</p>
<p>③事務職員及び技術職員を対象とした国立大学や高等専門学校等との人事交流を活用し、事務職員及び技術職員の能力向上を図る。</p>	<p>●学校の管理運営に関する研修会等</p>	<p>副校長 (運営) *人事係</p>	<p>○機構主催の教員研修会へ延べ3名が参加した。</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>有</p>
	<p>○機構等の主催する研修会等へ役職員が積極的に参加する。</p> <p>○幹部教職員による意見交換会を開催する。</p>		<p>(内訳) ・管理職研修:1名 ・クラス経営・生活指導研修会:2名</p> <p>○毎週月曜日を定例として、校長意見交換会を45回実施した。</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>有</p>
	<p>●事務職員及び技術職員の能力向上を図るための研修会</p>	<p>副校長 (運営) *人事係</p>	<p>○機構等主催の事務職員研修会へ延べ24名、技術職員研修会へ延べ3名が参加した。</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>有</p>
<p>○機構等の主催する研修会及び各職員が担当する業務に関する実務研修会等に参加する。</p>	<p>(主な研修の内訳) ・新任職員、課長補佐・係長研修会:7名 ・給与実務初任者等研修会:1名 ・人事事務担当者説明会:1名 ・学務関係職員研修会:1名 ・情報担当者研修会:2名 ・西日本地域高専技術職員特別研修会:1名 ・地区研修等:4名 ・その他:9名</p> <p>平成24年度は、例年に増して、事務職員・技術職員が他機関主催の研修会等へ積極的に参加しており、来年度も引き続き職員の能力向上のための研修会等へ積極的に参加することとする。</p>		<p>Ⅲ</p>	<p>有</p>	
<p>○若手職員(採用後1年～5年程度)を中心とした学内勉強会を実施する。</p> <p>○若手職員(採用後1年～5年程度)を中心に、近隣の中国地区高専</p> <p>○e-ラーニングやグループ討論などを取り入れた新形式の学内研修について、研修方法及び内容の構築を整備する。</p>	<p>○広島商船高専の施設見学を予定していたが、先方との日程が合わず、実施を見合わせた。</p> <p>○来年度の実施に向けて、引き続き検討を進める。</p>		<p>Ⅰ</p> <p>Ⅰ</p>	<p>有</p> <p>有</p>	

平成24年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	実施状況	実施結果	次年度予定
	○技術職員対象の各種研修会および資格取得等講習会等に、積極的に参加する。	技 術 センター長	○6月に安全衛生マネジメント研修会を技術センターで企画し、実施した。 ○外部で開催された、平成24年度中国地区技術職員研修、西日本地域高専技術職員研修会(建設・環境系)、平成24年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修会、平成24年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員マネジメント研究会、平成24年度 IT人材育成研修会 コース②「インターネットセキュリティ技術」、2012年度後期 オムロン株式会社「制御技術セミナー」基礎コースに参加した。	Ⅲ	有
	●事務職員及び技術職員を対象とした国立大学や高等専門学校等との人事交流	副校長 (運営)	○広島大学関係理事と協議を実施した。	Ⅲ	有
	○広島大学と事務職員及び技術職員の長期研修交流に関する協議を実施する。				
	○広島大学との人事交流規模の適正化と高専間交流に関する検討を行う。		○広島大学及び近隣高専の人事担当課長と意見交換を実施した。	Ⅲ	有
④初任者及び転入者研修のためのe-教材等を整備し、本校の学校運営方針を踏まえた研修を実施する。	●ネットワークを利用した情報提供	教 育 センター長	○新任教員が着任した際に説明会を行い、新任教員マニュアルを配信した。	Ⅱ	有
	○新任教員や非常勤講師に学校の運営方針や教育研究に必要な情報をネットワークを介して提供できるように整備する。				
5. 業務運営の効率化に関する事項 ①業務の効率化・合理化を推進する。	●事務等の効率化・合理化	副校長 (運営) * 総務課長	○学生課事務職員に教育機関を取り巻く社会情勢の変化及び方向性を説明し、能率及び効率に視点を置いた場合の改善8原則を説明した。 ○前述の講義を若手技術系職員に実施した。	Ⅲ	有
	○事務・技術職員を対象とした業務の効率化・合理化に向けた改善を検討し、実施する。				
	○高専機構業務マニュアル(契約・決算等)に沿った業務体制を確立し、効率化を図る。	副校長 (運営) * 会計室長	○マニュアルに沿った業務処理を実施した。	Ⅲ	有
	○事務部全体において、情報共有を行うことにより、業務重複や無駄な作業をなくすとともに業務分担等の見直しを行なう。		○毎週、各課各室の代表係長による情報共有を行い、業務分担の見直しにより、業務軽減を行った。	Ⅲ	有
②一般管理費の縮減に努めるとともに、随意契約の見直しを行う。	●一般管理費の縮減	副校長 (運営) * 会計室長	○不要不急な物品購入や役務の仕分けを行い、環境に配慮した物品購入及び設備整備に効率的な予算の執行を行った。	Ⅲ	有
	○不要不急な業務(物品購入・役務)の仕分けを行なうとともに、環境に配慮した製品購入及び設備整備を推進する。				
	○必要数量を的確に把握し、無駄な在庫品をなくす。		○封筒・コピー用紙・トナーについて、必要数量を的確に把握し、無駄な在庫が発生しないようした。	Ⅲ	有
	○清掃・警備等の役務業務について、安全性を確保しつつ必要性を検討し、教育環境の改善を図る。		○清掃・警備等、教育環境の改善に努めた。	Ⅲ	有
	○物品の稼働状況等を把握し、再利用可能なものについては、優先的に使用する。		○再利用できる物品を優先的に利用した。	Ⅲ	有

平成24年度 自己点検・評価に係る報告書

NO.12

第2期中期計画	年度計画	担当者	実施状況	実施結果	次年度予定
	<p>●<b>随意契約の見直し</b></p> <p>○電気・ガス・水道・電話・郵便等の公共料金に類する契約を除き、随意契約は行わない。 また、企画競争(総合評価・公募)についても、競争性と透明性をより高める。</p>	<p>副校長 (運営) * 会計室長</p>	<p>○電気・ガス・水道・電話・郵便等の公共料金を除き、契約は競争入札(一般、公募等)で行った。</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>有</p>
	<p>●<b>一般競争契約における競争性と透明性の更なる確保</b></p> <p>○参加要件(地域・資格)緩和及び仕様内容を検討し、今まで以上に競争性を増すことによる費用削減を行う。</p>		<p>○参加要件の緩和により、競争性が増すように行った。</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>有</p>
	<p>○入札における質問事項について、すべての参加希望業者に回答を公表する等の措置を講じるにより、透明性を確保する。</p>		<p>○入札の透明性を確保した。</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>有</p>
	<p>●<b>施設マネジメント, 整備計画</b></p> <p>○施設・整備計画による整備を行うとともに、前年度と同様に省エネに努める。</p>		<p>○日々の電気使用量を周知し、節電への呼び掛けを実施した。 ○夏季及び冬季には、エアコンの温度を適正な温度にするよう周知を行い、前年度より7%節電することができた。</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>有</p>